

「絵描き歌」を利用した情報伝達の授業

大阪府立桃谷高等学校 野部 緑

1. 授業の目的

情報の授業における情報の活用の内容には「わかりやすく情報を伝える」ということがあり、見やすくわかりやすい文書を作成するためには「文字だけではなく表やグラフを利用する」、「配色に工夫する」、といったことがいわれている。このうち視覚的な効果については、昔から「百聞は一見に如かず」といわれているのだから、効果があつて当然であるが、この当然なことを生徒に実感して欲しいというのが、今回の実践の目的である。

2. 実践授業について

本校は単位制であり、クラス単位で授業を受けることがなく、受講生同士のつながりは薄くグループの活動というのは難しいことも多い。

したがって、生徒同士で何かを伝えるという形ではなく、教師が「情報」を提示する方法を変えることで、情報の伝達について考えるという方法をとった。

2-1 絵描き歌の利用

絵を使った情報伝達の方法はさまざまであるが、そのひとつとして、「絵描き歌」を挙げることができるだろう。もっとも、絵描き歌といいながら、実際には、歌いながら描いていくことがほとんどである。これを「絵」を見せないでどこまで理解できるかということで、授業を行った。

2-2 1回目の授業について

2つの講座で授業を行った。(4限目18名、6限目12名を対象)

授業の方法は以下の通りである。

- ① 歌詞をプリントしたものを配布し、歌のメロディを流して、歌詞だけで絵を描く
- ② 絵をみながら、もう一度絵を描く

この後、どちらが描きやすかったか、また、伝えるということについてどう思うかといったことについて、感想を書かせた。描きやすさについては、予想された通り全員、絵がある方が描きやすいという回答であった。

感想についても、絵がある方が伝わりやすいという以下のような意見が大半であった。

- ・文字だけでは伝わらないけれど、絵があると正確
- ・絵描き歌って歌詞だけでは書けないんですね
- ・情報を伝えるには見せることも大事

一方で、「わかりやすく伝える」「正確に伝える」といった目的からははずれるが、以下のような感想もあった。

- ・絵がないほうが想像力がはたらく
- ・想像で描いたら全然ちがったけれど、それもまたおもしろい
- ・

2-3 2回目の授業について

2回目は、1つの講座19名を対象とした。

1回目の授業で「ヒント」という生徒からの要望があった。1回目の授業では生かせなかったもので、2回目の授業で取り入れることとし、次の3段階で絵を描くように指示した。

- ① 歌詞をプリントしたものを配布し、歌のメロディを流して、歌詞だけで絵を描く
- ② 歌詞について、ヒントを与えて、もう一度絵を描く。
- ③ 絵をみながら、もう一度絵を描く

この後、1回目と2回目、また2回目と3回目について、同じように描きやすさについての質問、また、感想を記入させた。

1回目より2回目の方が描きやすい、また2回目より3回目が描きやすいという生徒が大半であったが、2回目でほとんどわかったので、3回目が必要ないという生徒もいた。

感想については以下の通り。

- ・ 文字だけだとわからなかったけれど、ヒントがあると少しわかった。
- ・ 文字で絵を伝えようとする、いろいろと情報がたくさんないとだめですね
- ・ 絵だと1回でわかることが、文字だけだと難しい
- ・ 文字だけだといろいろ想像して考えることができるけれど、正確に伝えようと思うと、絵などの工夫がいると思った。
- ・ いろいろなものを組み合わせることで、伝えることができるんだと思いました。

歌詞のみだけでなく、歌詞とヒントという組み合わせを行ったことによって、多くの文字情報と絵をいうことについての感想もあり、こちらが意図したことについては1回目の授業よりわかりやすかったのではと考える。

3. まとめ

もともと、「絵がある方が描きやすい」というのは予想通りの結果である。しかし、生徒からの「ヒントを下さい」という要望で3段階にするなど、授業を行うことでさらに工夫をすることが可能であった。時間配分や提示方法などさらに工夫が必要だと思われる。

一方、今回「絵がない方が想像できる」という感想については、授業中に生かすことができなかったが、小説と映画や漫画についての話で、「正確に伝えなければいけないもの」「創造の余地があるほうがいいもの」といった授業発展も可能だろう。次回につなげたい。

今回は既存の「絵描き歌」を利用しているが、生徒が絵描き歌を考えるといったことも考えられる。また、今回は教師対生徒という形で情報を伝えているが、授業形態によっては生徒同士が絵についての情報を伝えるなどいろいろな発展形を考えること可能だと思う。

また、「これって情報なん」という質問も授業中にあったが、このような授業をおこなうことで、「パソコン操作≠情報の授業」ということをわかるきっかけにもなればと願う。

4. そのほかの工夫—問題解決の題材

タイトルとは違うが、「情報活用」については、問題解決がひとつのキーワードとなっている。しかし、教科書の題材では、本校の場合、身近ではないので、「バイトを探す」ということをテーマにして、授業をおこなった。

駅に「バイト情報誌」があることで、インターネットを利用する以外の方法が比較的簡単に思いつくので、情報の収集について、それぞれの媒体の違いについて発展がしやすい題材である。これについても、時間があれば発表したい。